

自然観察 NOW

NO : 40

野幌森林公園自然情報

発行 : 2019年8月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



野幌森林公園の植物

「道立自然公園野幌森林公園の植物（調査報告書）2013年～2017年」（野幌森林公園植物調査の会発刊）によると公園の植物（シダ及びコケを除く）は580種の生育が確認されています。その内約20%程度が外来種であることが判明しました。環境省が防除・注意喚起を必要とする特定外来生物が1種、生態系被害防止外来種が19種生育していることが分かりました。

オオハンゴンソウは、「特定外来生物」に指定されており、全国各地で駆除作業が実施されています。当公園でも、北海道ボランティア・レンジャー協議会、公園関係者、一般参加者などで拡大の抑制のための駆除作業を、中央線を主に2009年から継続して実施しています。しかし、本年は、熊騒動のため駆除作業を中止しました。今では、従来見られなかったモミジコースの遊歩道にもオオハンゴンソウが侵入する状態になっています。



公園の生態系被害防止外来種

アメリカオニアザミ、アメリカセンダングサ、イタチハギ、エゾノギシギシ、オオアワガエリ、オオアワダチソウ、カモガヤ、キバナコウリンタンポポ、コウリンタンポポ、セイタカアワダチソウ、ネバリノギク、ハリエンジュ、ハルガヤ、ハルザキヤマガラシ、ヒメジョオン、ヒメスイバ、フランスギク、ユウゼンギクの19種

環境に影響を与える生物の区分

「特定外来生物」とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼす恐れがあるものの中から環境省が指定する。

「生態系被害防止外来種」、日本国内の在来種を含め、生態系や人間活動に被害を及ぼす恐れのあるものから環境省が指定する。

園内の環境に影響する主な植物

オオハンゴンソウ（大反魂草）

花は鮮やかな黄色で茎葉の姿は凛々しく、外形が魅力的なため観賞用に導入された植物です。倉本聰原作のドラマ「北の国から '98時代」の正吉が蛍にプロポーズで、「百万本のバラ」の代わりに、近くに群生するオオハンゴンソウの花を毎日、蛍に贈るシーンがありました。公園では中央線の戦後開拓の離農跡地で大群落の集団で生育しています。根茎と種子での繁殖が旺盛で、他植物を圧倒するため、「特定外来生物」に指定されており、全国各地で駆除作業が実施されています。



セイタカアワダチソウ（背高粟立草）

空き地などに集団で他を圧倒する勢力で、花粉症の元凶だと誤解されたことで過大に問題視されましたが、アワダチソウの仲間は虫媒花で今では無関係と考えられています。しかし、多年生草本であり、地下部からアレロパシー物質を分泌し、他の種子の発芽を抑制する（自身の発芽も抑制します）。このために純群落を形成して繁茂することから生態系に対する影響が強く、生態系被害防止外来種に指定されています。公園では、ふれあいコースの農地跡がアワダチソウ一色です。種子だけでなく地下茎でも増え繁殖力旺盛。



左：セイタカアワダチソウ、右：オオアワダチソウ

オオアワダチソウ（大粟立草）

セイタカアワダチソウより背が低く、葉や茎がザラザラせず、花穂の先端部分が曲がる。花期も早く、セイタカアワダチソウが咲く頃には花期は終わっています。大群落にもならない。明治頃から栽培されていたものが日本全国の荒地や河川敷などに野生化しており、北海道ではセイタカアワダチソウよりも優占しています。

ユウゼンギク（友禅菊）

キク科シオン属の多年草で、原産地は北アメリカで、明治時代に渡来した帰化植物で園芸種の宿根アスター、クジャクアスターなどの名で販売されていますが、現在では野生化し、道ばたや空地などに生育して自生種の菊を抑制するため生態系被害防止外来種に指定されています。北海道の秋の野原を飾る野菊は、ユウゼンギク・エゾノコンギク及びネバリノギクは非常に良く似ていますがその違いは表のとおりです。



エゾノコンギク (蝦夷野紺菊)	ユウゼンギク (友禅菊)	ネバリノギク (粘野菊)
日本産	北アメリカ産	北アメリカ産
	生態系被害防止外来種	生態系被害防止外来種
茎・葉に剛毛、ザラザラ	茎・葉に毛は無くツルツル	茎・葉・頭花柄線毛があり粘る
葉は長楕円、粗い鋸歯	葉は線状楕円、全縁	葉は線状楕円、全縁
頭花は舌状花が 20 以下	頭花は舌状花が 20 以上	頭花は舌状花が 50 以上
葉柄基部：茎を抱かない	葉柄基部：茎を半端抱く	葉柄基部：耳状に抱く

自然観察ハンドブックⅡ（北海道ボランティア・レンジャー協議会）参照

ハルジオン（春紫苑）とヒメジョオン（姫女苑）

ハルジオンは、花期まで根生葉が残ります。花や葉の色は、やや濃いものの、つぼみが茎ごとうなだれるためか、全体に曲線の持つ柔らかな雰囲気があります。ヒメジョオンの葉は、明るい緑色ですが、茎がまっすぐ立ち上がるので、直線的な印象を受けます。両種とも生態系被害防止外来種

観察会予定

8月18日（日） 苫小牧緑ヶ丘公園観察会 10：00～12：30 緑ヶ丘公園金太郎の池駐車場
9月 7日（土） 秋の花で賑わう森を歩こう 10：00～14：30 自然ふれあい交流会館

（文責：三井 茂）